

平成 18 年度「栄町まちづくり社会実験推進協議会」準備会  
～ 議事録～

日時：平成 18 年 5 月 30 日（火）

13：30～14：00

場所：国際交流プラザ会議室

(敬称略・順不同)

氏 名	所 属	出 欠
有 識 者		
藤 井 経三郎	NPO 法人鎌倉市市民活動センター運営会議 前 理事長	
岡 部 明 子	千葉大学 工 学 部 助教授	
畢 滔 滔	敬愛大学 経済学部 助教授	
松 井 雅 彦	(株) 横浜みなとみらい21 前常務取締役	
地元関係団体		
理事長 小出 衛	栄町通り商店街振興組合	
副理事長 小倉 秀夫		
常任理事 辻 隆徳		欠
会 長 平山 哲也	栄町町会	
副会長 伊藤 志津子		
副会長 小田切 栄一		代理出席
会 長 山崎 信男	千葉県特殊浴場協会	
副会長 永瀬 孝夫		
会 長 河原田 四郎	栄町曙商店会	
小林 秀雄		
地元まちづくり活動実践者		
藤 代 正 彦	工業デザイナー (中央区道場南在住)	
公的団体		
会 長 竹内 恵智郎	千葉市中心市街地まちづくり協議会	
主 幹 田邊 光司	千葉商工会議所 (TMO)	
マネージャー 鴻崎 寛道	千葉市産業振興財団	
課 長 山田 義明	千葉市経済農政局経済部経済振興課	
課 長 中田 文昭	千葉市都市局都市部まちづくり推進課	
事務局等		
千葉市経済振興課		
千葉市まちづくり推進課		
(株)オリエンタルコンサルタンツ		

## 1．開会挨拶

### 【中田課長】

- ・ 配布した第2次5か年計画のP.16の「第1章魅力あるまちづくりを推進する」の中に「栄町都市再生まちづくりの推進」が挙げられているが、都市部と経済部が連携して取り組んでいく。
- ・ まちづくりは、行政だけでも住民だけでもできない。みんなが連携して行っていく必要がある。本日はそのスタートとして、栄町まちづくり社会実験推進協議会の準備会を開催できたことに感謝します。

## 2．協議会の趣旨及び委員の選出（資料1）

- ・ 事務局説明

## 3．協議会規約の承認（資料2）

- ・ 事務局説明
- ・ 承認された。

## 4．委員及び事務局の自己紹介

- ・ 事務局より紹介

平成 18 年度「栄町まちづくり社会実験推進協議会」第 1 回協議会  
～ 議事録 ～

日時：平成 18 年 5 月 30 日（火）

14：00～15：30

場所：国際交流プラザ会議室

(敬称略・順不同)

氏 名	所 属	出 欠
有 識 者		
藤 井 経三郎	NPO 法人鎌倉市市民活動センター運営会議 前 理事長	
岡 部 明 子	千葉大学 工 学 部 助教授	
畢 滔 滔	敬愛大学 経済学部 助教授	
松 井 雅 彦	(株) 横浜みなとみらい21 前常務取締役	
地元関係団体		
理事長 小出 衛	栄町通り商店街振興組合	
副理事長 小倉 秀夫		
常任理事 辻 隆徳		欠
会 長 平山 哲也	栄町町会	
副会長 伊藤 志津子		
副会長 小田切 栄一		代理出席
会 長 山崎 信男	千葉県特殊浴場協会	
副会長 永瀬 孝夫		
会 長 河原田 四郎	栄町曙商店会	
小林 秀雄		
地元まちづくり活動実践者		
藤 代 正 彦	工業デザイナー (中央区道場南在住)	
公的団体		
会 長 竹内 恵智郎	千葉市中心市街地まちづくり協議会	
主 幹 田邊 光司	千葉商工会議所 (TMO)	
マネージャー 鴻崎 寛道	千葉市産業振興財団	
課 長 山田 義明	千葉市経済農政局経済部経済振興課	
課 長 中田 文昭	千葉市都市局都市部まちづくり推進課	
事務局等		
(株)オリエンタルコンサルタンツ		
千葉市経済振興課		
千葉市まちづくり推進課		

## 1. 開会

## 2. 役員を選出

- ・ 会長に NPO 法人鎌倉市市民活動センター運営会議 前理事長の藤井経三郎氏、副会長に (株) 横浜みなとみらい21 前常務取締役の松井雅彦氏が選出された。

## 3. 役員挨拶

### 【藤井会長】

- ・ まちづくりというのは、最終的には人材が重要となる。主体的に自分たちのまちをつくっていく住民、まちに来ていただけるファン、また、支援していただける人など、様々な人のネットワークを作る必要がある。そういった人材を掘り起こすことが重要で、埋蔵文化財を掘り起こすように、埋蔵市民を掘り起こしているいろいろな方々に関わってもらうことがカギとなるのではないかな。
- ・ 女性の先生も2人いらっしゃる大変心強い。女性がまちを実際に運営していく力となる。

## 4. 現況と課題(資料1)

- ・ 事務局説明

## 5. 質疑応答

藤井：全国的に人口減少時代にある中、人口が増加している都市を久しぶりに見た。

藤代：栄町の近所に住んでいるが、栄町に生鮮食品などを売る店があると、散歩がてら出かけられて良いと思う。しかし、今は、イトーヨーカドーや郊外の大型店へ買い物に行くという状況。

藤井：「都心回帰」という言葉があるが、今回の課題と並行して「住む」という視点でも検討するとよいのではないかな。

平山：まちづくりは2～30年前から行っているが、まちは寂れていくばかり。その原因は、千葉駅が移転したことである。

「まずは「人づくり」からやっていこう」と、先日課長に話したところである。

「栄町は怖い」「暴力団のまち」ということが言われてきていたが、行政と一緒にあって暴力の追放に取り組んできており、最近はよくなってきている。

藤井：「人づくり」という言葉が出たが、今回基本となるものだと思う。

## 6. 社会実験公募に関する条件整理

- ・ 事務局説明

岡部：千葉大学は千葉県を中心として「まちづくり」の研究をしている。私はまだ千葉大学に来て2年目であるが、先輩の先生方は、千葉県内のいろいろな場所で研究を行っている。栄町については、教育学部が中心になって「Wi-can」というアートを中心とした活動を行っている。

今回は、「社会」の実験をやる場だと思う。いろいろなまちづくりをやってきたが思うようにいかないということも多いと思うので、今までよりも視野を広げて検討する必要がある。

公募に関しては、条件を緩くしてはどうか。2段階にするのか、別の方法にするのか、今後検討する必要がある。

畢：学生を使ってまちづくりをすることはあまりないが、去年1年間、栄町の方々の協力を

得て調査を行った。

「公募する内容」について、「地元団体等との連携、協力」を強調してもらいたい。実験は1～2年だと思うが、その中でいろいろなアイデアが出てきて、それが長期的に続いていくことが望ましい。

環境の変化がダメージを与えたことは事実だと思うが、近くの商店街が衰退したとは言いきれない。環境以外の問題もあるのではないかと思う。「人」や「組織」が重要だと思う。

平山：大学から学生がたくさん来たが、本当の栄町を知らない。裏に入るとまだ怖い地区である。そういった本当の現状をわかっていない。

藤井：畢先生のおっしゃった「継続」が重要だと思う。

また、「地元との連携」も評価の切り口となる。

松井：要項の条件について、栄町のエリアをどのように捉えるか？たとえば、コミュニティバスなどは、栄町外から人を運んでくる。栄町の地区外へはみ出すものであるが、(今回のまちづくりにとって)有効な計画だと思う。

また、モノレールの軌道や河川も使えるのか？各管理者の協力・協働が必要となるが、募集は幅広く行っていくことがよいと思う。

今の時代、「環境にやさしい」ということ、「防災」などは、必要な要素であるが、例えば中野区では防災訓練をイベントにしている。

小出：去年1年、経済振興課と勉強会を行い、社会実験について徐々にわかってきて、商店街としては期待している。新しい店が出店するといえば、韓国系の店や風俗店等になってしまう状況であるが、栄町にはどういうものがあるのか、いろいろな提案を受けられると思っており、この事業には期待している。

小倉：今回は、「できることからやろう」ということで期待している。まずはみんなが同じ目線で見ていくことが大切だと思う。

山崎：商店街が空くと、不必要な(望ましくない)店が出店する。その店の隣が空いても、そこでは店を開きたくないという話になることもある。そういった店を規制できないのかと、市役所に聞いたところ、「業種を特定して規制するよう、町で決めればできる」とのことだった。町の発展のためと、一方で望ましくない店を安易に受け入れておいて、一方でいい町が作りたいたいと言っても、無理ではないか。

警察の風俗保安課では、栄町と富士見町地区を風俗の活性化地区としている。風俗営業を中心にし、町に必要な風俗を取り締まるということだと思う。警察の風俗活性化の考え方も踏まえる必要があるのではないか(無視はできない)。

栄町が普通の商業地だったら、こうはならなかったと思うが、特殊な業種が入ってきて現在に至っている。栄町は「人が集まる場所」であって、一頃は500人を超えていた従業員が今は300人くらいに減っている。なんの業種が良いかはわからないが、現在ある町を土台に、どうしていくかを考えるべきではないか。

今回は、商店街のことが主体だと思うが、周辺の町の状況についても考えていく必要があると思う。

伊藤：地元団体と連携していかなければならない。主婦としては、商店街で買い物するとしても、魚屋も総菜屋もなく、よそへ出ていかなければならない状況。

小田切(代理)：行政の方には、栄町をもうちょっと見てほしい。「まちづくり」とよく言われるけど、あの環境ではまちづくり以前の問題だと思う。今回の会議も、栄町会館で開催していただきたかった。そうすれば、町の状況がよくみえると思う。次回は是非、栄町でお願いしたい。

小出：募集対象地区については、どこを対象にしているか？

中田課長：「栄町」を振り向いてもらうことが重要。社会実験を実施することも目的であるが、社会実験を実施して注目してもらうことも重要だと考えている。公募はあまり制限せず、広く行いたい。

栄町はきれい事では済まされないということは承知している。千葉県警が今年4月から、船橋と栄町をターゲットとしているので、必要に応じて警察などを含めいろいろな方々と連携しないと実験はうまくいかない。

藤井：公募内容について、まちの方向性（理念・コンセプト）を入れればどうか。聖と俗、善と悪が混在してバランスよく保たれているのが魅力あるまちではないか。

対象地区については、「まちそのもの」を対象にしてもよいのでは？また、応募資格は、「団体」に大学も入っていればよいが、大学や高校、小学校等も含めてもよいのではないか（評価軸は別のものにする必要があるが）。

選定の方法については、この協議会だけで決めるのではなく、公開のプレゼンテーションを行うことでもよいのではないか。

松井：藤井会長と同意見。

コンセプトという言葉があったが、千葉市が取り組むユニークな実験ということを出していく必要があると思う。昨今は都市間競争が激しくなっており、これから生き抜くためにどうするかというのはどの都市にとっても大きな課題となっている。大阪でも今コンペを行っていて、必死でがんばっている。この町でも、話題になるような実験にしていくとよい。コンセプトのところを市の方でもう少し強調したような応募要領にしてはどうか。

## 7. 閉会

- ・ 情報発信が重要だという話がありました。口コミでも構わないので広めていただきたい。
- ・ 第2回協議会は、6月27日（火）13：00～15：00とし、場所は本日出されたご意見を踏まえて検討します。

以上